

結果のまとめ

尺度 (項目数)	各質問項目の素点 (左上の数字は質問番号)					素点 合計	評価点						
	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		
よい条件 (3)	1	2	3	↑				3~6	7~8	9	10~11	12~15	
環境音 (2)	4	5	↑					2~4	5	6	7~8	9~10	
わるい条件 (5)	6	7	8	9	10	↑		5~16	17~18	19~20	21~22	23~25	
行動 (2) *	11	12	↑					2~3	4	5	6~7	8~10	
心理 (3) *	13	14	15	↑				3~6	7~8	9~10	11	12~15	
スティング (8)	16	17	18	19	20	21	22	23	8~16	17~20	21~23	24~26	27~40

註1. 素点は、白枠の質問項目では選択肢の左端を1点、右端を5点とし、

灰色枠 (*) では左端を5点、右端を1点とする

註2. 「経験なし」は「x」、「無回答」は「N」を記入する (素点は合計しない)

標準純音聴力検査

周波数	125	250	500	1000	2000	4000	8000	Hz
気導								dBHL
骨導								dBHL
								dBHL
								dBHL

語音弁別能 (最高語音明瞭度)

標耳	%		(dBHL)	
	右	左	右	左

補充現象

右 陽性 陰性
左 陽性 陰性

施設設名

きこえについての質問紙2002 (装用前)

厚生科学研究 感覚器障害及び免疫アレルギー事業

難聴によるコミュニケーション障害と補聴器による改善効果の評価法に関する研究
(H11-感覚器-004:平成11-13年)

発行 2002年3月31日

編集・監修 岡本牧人

発行所 北里大学医学部耳鼻咽喉科 神奈川県相模原市北里 1-15-1

きこえについての質問紙 2002（装用後）

補聴器をつけた状況でお答え下さい

記入日 平成 年 月 日

あなたのおなまえ

年齢 歳 性別 男 女

難聴はいつ頃気づきましたか。右耳 () 歳頃 左耳 () 歳頃

同居のご家族： なし あり (続柄

現在の職業・業務： なし あり (

趣味・お好きなこと： (

補聴器の使用経歴： 年 月

補聴器の使用時間はどのくらいですか。○を付けてください。

() 毎日ほぼ 8 時間以上

() 8 時間未満だがほぼ毎日 (一日 時間ぐらい)

() 毎日ではなく必要な時だけ (週 時間ぐらい)

() ほとんど使用していない (理由：)

補聴器はどのような場面で使いますか。使う場面すべてに○を付けてください。

() 家族・知人との 1 対 1 の会話 () 家族・知人との数人の会話 () テレビ

() 電話 () 外出時 () 会合や集会

() 職場での会話 () その他 ()

補聴器の全体としての満足度はいかがですか。「非常に満足」を 100 点、「全く不満」を 0 点としたら、何点でしょうか。() 点ぐらい

補聴器についての不満とはどのようなことでしょうか。自由にお書き下さい。

いつもの暮らしを振り返って、適当な項目を選び○をつけてください。
電話を使うことはありませんか。

1. よく使う
2. ときどき使う
3. ほとんど使わない
4. まったく使わない

電話はどちらの耳で使いますか。

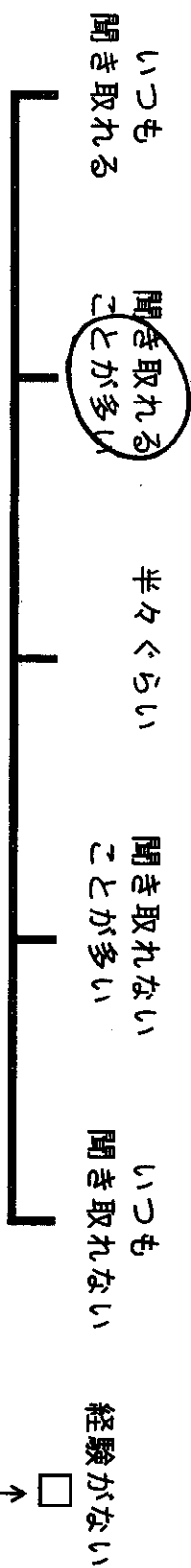
1. 補聴器をつけた耳で使う
2. 補聴器をつけない耳で使う
3. 補聴器をはずして、その耳で使う
4. とくに決めていない

どんな電話機を使っていますか。

1. 特別な電話機は使っていない
2. 話が大きく聞こえるように音量調節ができる電話機
3. 補聴器使用者用（Tコイルが使える）電話機
4. ハウリング防止のために受話器に工夫がしてある電話機

日常生活のさまざまな場面での聞き取りの状況やあなたへの気持ちについての質問です。当てはまるところを○で囲んでください。各質問場面に当てはまる経験が無い方は「経験がない」にチェック「☒」してください。

例題 病院の受付で自分の名前を呼ばれたとき、聞き取れる

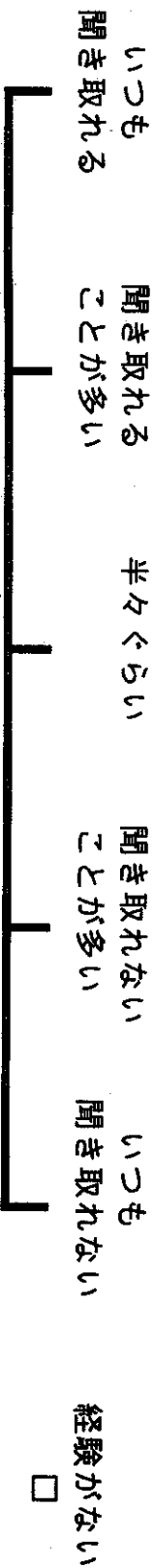


病院に最近行ったことがない人はここにチェックして下さい。

1 静かな所で、家族や友人と1対1で向かいあって会話をする時、聞き取れる



2 家の外のみあまりうるさくないところで会話する時、聞き取れる



補聴器をつけた状況をお答え下さい

3 買い物やレストランで店の人と話す時、聞き取れる

いつも聞き取れる	聞き取れることが多い	半々ぐらい	聞き取れないことが多い	いつも聞き取れない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

経験がない

4 後ろから近づいてくる車の音が、聞こえる

いつも聞こえる	聞こえることが多い	半々ぐらい	聞こえないことが多い	いつも聞こえない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

経験がない

5 電子レンジの「チン」という音など、小さな電子音が聞こえる

いつも聞こえる	聞こえることが多い	半々ぐらい	聞こえないことが多い	いつも聞こえない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

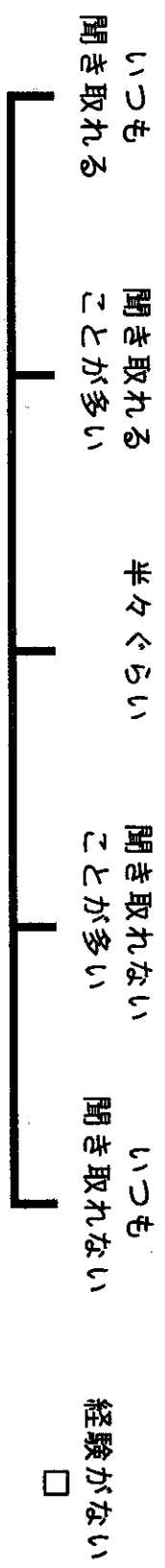
経験がない

6 うしろから呼びかけられた時、聞こえる

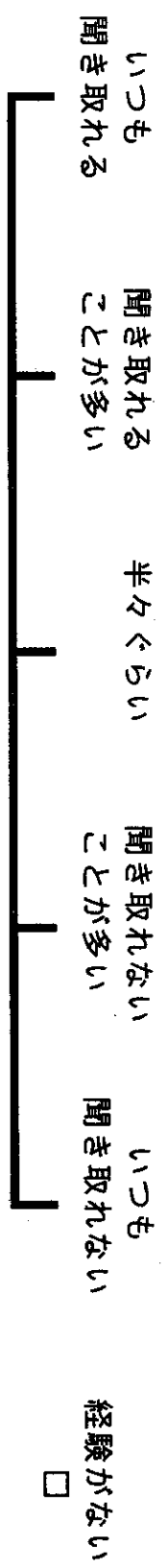
いつも聞こえる	聞こえることが多い	半々ぐらい	聞こえないことが多い	いつも聞こえない
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

経験がない

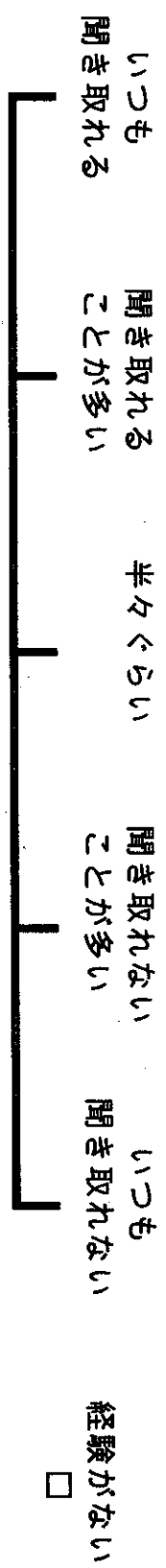
7 人ごみの中での会話が聞き取れる



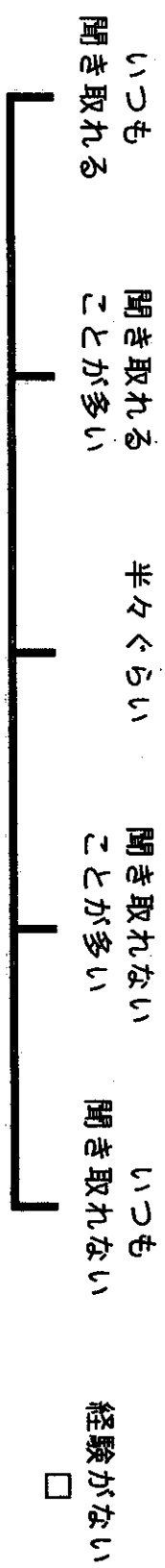
8 4、5人の集まりで、話が聞き取れる



9 小声で話された時、聞き取れる

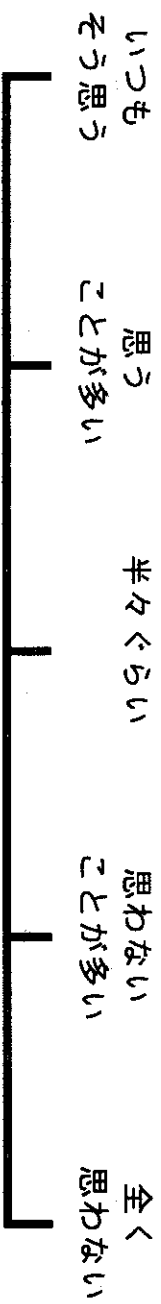


10 テレビのドラマをまわりの人々にちょうどよい大ききさで聞いている時、聞き取れる



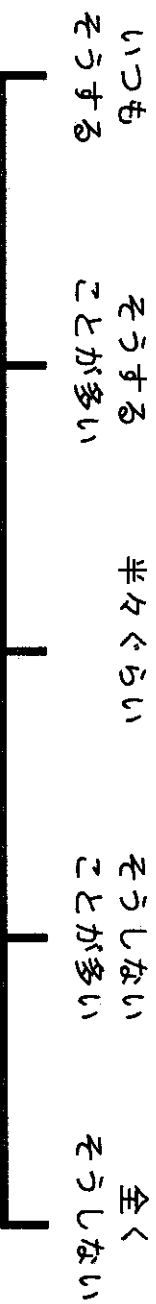
補聴器をつけた状況をお答え下さい

15 聞こえにくいことが、あなたの家族や友人との関係になんらかの影響を及ぼしていると思う

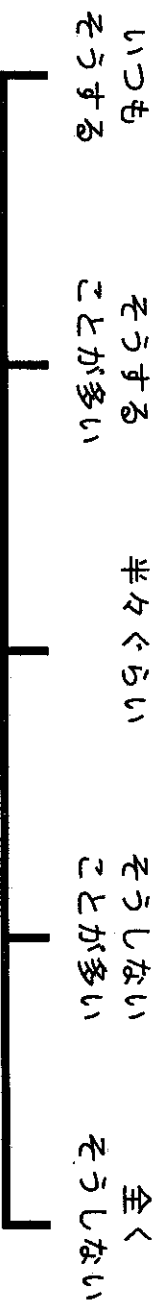


日常生活のいろいろな場面での聞き取りのしかたについての質問です。
当てはまるところを○で囲んでください。

16 話が聞き取りにくい時は、話している人に近づく



17 会話中は、相手の口元を見る



補聴器をつけた状況をお答え下さい

18 うるさくて会話が聞えない時は、静かな所に移る

いつも そうする	そうする ことが多い	半々ぐらい	そうしない ことが多い	全く そうしない
-------------	---------------	-------	----------------	-------------

19 話が聞き取れなかった時は、近くの人に尋ねる

いつも そうする	そうする ことが多い	半々ぐらい	そうしない ことが多い	全く そうしない
-------------	---------------	-------	----------------	-------------

20 話が聞き取れなかった時は、もう一度くり返してくれよう頼む

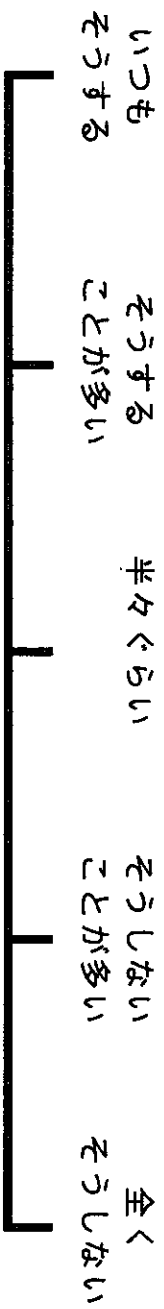
いつも そうする	そうする ことが多い	半々ぐらい	そうしない ことが多い	全く そうしない
-------------	---------------	-------	----------------	-------------

21 小声や早口の相手には、ゆっくりはつきり話してくれよう頼む

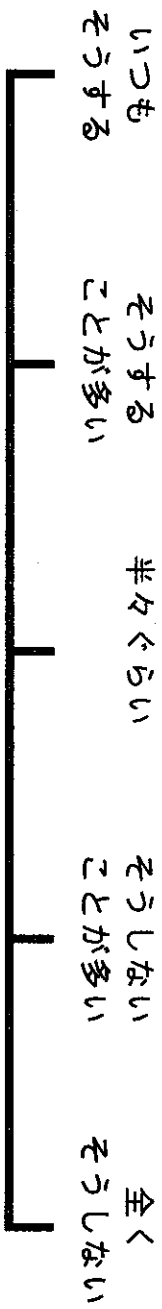
いつも そうする	そうする ことが多い	半々ぐらい	そうしない ことが多い	全く そうしない
-------------	---------------	-------	----------------	-------------

22 相手のことばを聞こえた通りに繰り返す

例 1) 相手「集合は7時です」 ⇒ あなた「集合は7時ですね」
 例 2) 相手「集合は7時です」 ⇒ あなた「集合は？」



23 自分の耳が聞こえにくいことを、会話の相手に伝える



おわりです。おつかれさまでした。

以下は各施設でご利用下さい。
「きこえについての質問紙 2002」について

この質問紙は厚生科学研究「難聴によるコミュニケーション障害と補聴器による改善効果の評価法に関する研究（課題番号H11-感覚器-004）」の成果として作成されました。利用に制限はありませんが、この質問紙の質問項目を用いて研究発表等をされる場合は出典を明記してください。研究は3年にわたって行われ、平成11年度には「きこえについての質問紙」（質問項目50項）、平成12年度には「きこえについての質問紙2001」（質問項目28項）を報告し、平成13年度に「きこえについての質問紙2002」（質問項目23項）を最終版として作成しました。できれば「きこえについての質問紙2002」を利用していただきたいと思います。

参考までに、年度別質問紙間の各質問項目の番号対応を表に示します。
平成11年度「きこえについての質問紙」（2000）、12年度版「きこえについての質問紙2001」（2001）は質問項目をその内容に関わらずランダムに配置しました。平成13年度版「きこえについての質問紙2002」（2002）は、きこえの条件などを意図的に考慮して配置しました。

2002	2000	2001	2002	2000	2001
1	11	5	21	s3	s8
2	28	12	22	s7	s6
3	14	1	23	s2	s4
4	36	10			
5	29	9			
6	3	13			
7	34	3			
8	41	14			
9	42	15			
10	4	6			
11	30	19			
12	8	18			
13	38	20			
14	19	16			
15	40	17			
16	s4	s1			
17	s6	s7			
18	s8	s3			
19	s1	s2			
20	s5	s5			

2001	2000	2002	2001	2000	2002
1	14	3	s1	s4	16
2	31	x	s2	s1	19
3	34	7	s3	s8	18
4	9	x	s4	s2	23
5	11	1	s5	s5	20
6	4	10	s6	s7	22
7	23	x	s7	s6	17
8	26	x	s8	s3	21
9	29	5			
10	36	4			
11	16	x			
12	28	2			
13	3	6			
14	41	8			
15	42	9			
16	19	14			
17	40	15			
18	8	12			
19	30	11			
20	38	13			

2000	2001	2002	2000	2001	2002	2000	2001	2002
1	x	x	21	x	x	41	14	8
2	x	x	22	x	x	42	15	9
3	13	6	23	7	x	s1	s2	19
4	6	10	24	x	x	s2	s4	23
5	x	x	25	x	x	s3	s8	21
6	x	x	26	8	x	s4	s1	16
7	x	x	27	x	x	s5	s5	20
8	18	12	28	12	2	s6	s7	17
9	4	x	29	9	5	s7	s6	22
10	x	x	30	19	11	s8	s3	18
11	5	1	31	2	x			
12	x	x	32	x	x			
13	x	x	33	x	x			
14	1	3	34	3	7			
15	x	x	35	x	x			
16	11	x	36	10	4			
17	x	x	37	x	x			
18	x	x	38	20	13			
19	16	14	39	x	x			
20	x	x	40	17	15			

sはストラテジーの質問項目番号を表す

利用の手引き

1. 対象

対象は、成人の難聴者を想定しています。高齢の方にも見やすいように、太めの文字で作成しました。

2. 回答方法

回答方法は、難聴者自身でご自分で記入されることを原則とします。難聴者をご自分で記入できない場合は、家族の方や担当者が質問文を読み、回答を聞き取る方法で行ってください。

3. 質問紙の構成

「きこえについての質問紙2002」は、きこえに関する23の質問項目と付加的な情報を得るための質問項目とから構成されています。前者は6種の項目に分類され、その構成は以下のとおりです。

- | | | |
|--------|-------------------|----------------------------|
| 1～3項 | : 比較的良好条件下での語音の聴取 | |
| 4～5項 | : 環境音の聴取 | |
| 6～10項 | : 比較的悪い条件下での語音の聴取 | 以上 「きこえにくさ」に関する項目 |
| 11～12項 | : きこえにくさに直接関連した行動 | |
| 13～15項 | : きこえにくさに由来する情緒反応 | 以上 「心理・社会的影響」に関する項目 |
| 16～23項 | : コミュニケーションストラテジー | 以上 「コミュニケーションストラテジー」に関する項目 |
- 目的に応じて、（たとえば補聴器の直接的な効果を評価するために）最初の10項目、15項目だけを調査することも可能です。

4. 評価

結果は、1～10項「きこえにくさ」、16～23項「コミュニケーションストラテジー」は選択肢の左端から順に1～5点を、11～15項「心理・社会的影響」は右端から順に1～5点を配し、巻末の表「結果のまとめ」の項目番号の各欄に素点として記入してください。次に、横の列の素点を合計し、素点合計欄に記入してください。最後に、表の最右にある評価点変換表から素点合計が該当する欄を選び、○をつけてください。この操作によって6種の尺度それぞれの評価点が明らかになり、個人内の尺度間の得点比較や補聴器装用前後の変化の検討などが妥当性をもつこととなります。

「経験がない」や無回答の項目がある場合、素点合計や評価点は意味をもたないので注意してください。「経験がない」の場合は[N]、無回答の場合は[X]を、項目番号の各欄に記入してください。

5. データのご提供

この質問紙は研究班で行われた337名のデータを解析して作成されました。多くのデータで解析するとよりよい解釈が可能となります。もし、ご本人のご了解が得られるようでしたら、最終ページを当方へお送りいただければ、データを蓄積し、さらに解析を進めることができます。（患者さんの氏名は必要ありませんので、プライバシーは保護されます。）ご協力いただければ幸いです。

6. その他

この質問紙についてのご意見、ご要望は右宛にお願いします。
「補聴器装用ガイドライン2002」も合わせてご利用ください。

〒228-8555

神奈川県相模原市北里1-15-1

北里大学医学部耳鼻咽喉科

岡本 牧人

記入日 年 月 日

男 女 歳

結果のまとめ

尺度 (項目数)	各質問項目の素点 (左上の数字は質問番号)					素点 合計
	1	2	3	4	5	
よい条件 (3)	3	3~6	7~8	9	10~11	12~15
環境音 (2)	4	5	5	6	7~8	9~10
わるい条件 (5)	6	7	8	9	10	11
行動 (2) *	12	13	14	15	16	17
心理 (3) *	13	14	15	16	17	18
ストラテジ (8)	16	17	18	19	20	21
						22
						23
						24
						25
						26
						27
						28
						29
						30

註1. 素点は、白枠の質問項目では選択肢の左端を1点、右端を5点とし、

灰色枠 (*) では左端を5点、右端を1点とする

註2. 「経験なし」は「x」、「無回答」は「N」を記入する (素点は合計しない)

音場聴力検査

周波数	250	500	1000	2000	4000	Hz
両						SPL dB HL
右*						SPL dB HL
左*						SPL dB HL
両						SPL dB HL
右						SPL dB HL
左						SPL dB HL

* □ 裸耳左右のデータが標準純音聴力検査による場合はチェックしてください

補聴器

アナログ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
プログラマブル	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
デジタル	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

耳掛け形	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
耳穴形	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
箱形	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

イヤホン

この補聴器の
使用期間

社名 (右)

型式

社名 (左)

型式

語音明瞭度 (通常は音場)

両	右*	左*	両	右	左
裸耳	%	%	%	%	%
補聴耳	(dB HL)	(dB HL)	(dB HL)	(dB HL)	(dB HL)

貴施設名

* □ 裸耳左右のデータが受話器による語音弁別検査による場合はチェックしてください

きこえについての質問紙2002 (装用後)

厚生科学研究 感覚器障害及び免疫アレルギー事業

難聴によるコミュニケーション障害と補聴器による改善効果の評価法に関する研究
(H11-感覚器-004：平成11～13年)

発行 2002年3月31日

編集・監修 岡本牧人

発行所 北里大学医学部耳鼻咽喉科 神奈川県相模原市北里 1-15-1